

消化器外科専門医筆記試験問題（第 12 回より抜粋）

- 1 術後感染の予防と対策について誤っているのはどれか。
- a 予防的抗菌薬の投与期間は、手術開始直後から術後 4 日以内が適当である。
  - b 準清潔手術後の上部消化管手術後創感染防止の抗菌薬として、第一世代セフェム薬が選択される。
  - c 準清潔手術後の下部消化管手術後創感染予防として、第二世代セフェム薬が選択される。
  - d 毛髪の多い皮膚消毒においては、脱毛剤塗布が推奨される。
  - e 下部消化管手術後感染に対し、4 日間の術前経口抗菌薬の投与は有効である。
- 2 腸管免疫で誤っている組合せはどれか。
- a M 細胞 ————— 抗原補促
  - b マクロファージ ————— 抗原提示
  - c パイエル板 B 細胞 ————— IgA 産生
  - d パイエル板 T 細胞 —————  
Th2 サイトカイン分泌
  - e 腸管上皮間リンパ球 —————  
腸管上皮アポトーシス抑制
- 3 誤っている組合せはどれか。
- a MSSA 感染 —————  
第一世代セフェム薬有効
  - b MRSA 感染 —————  
バクトロバン鼻腔用軟膏有効
  - c 緑膿菌感染 —————  
ニューキノロン系薬剤有効
  - d クロストリジウム感染 —————  
バンコマイシン有効
  - e 結核菌感染 ————— オスバン有効
- 4 抗癌剤の作用で正しいのはどれか。
- (1) 5-fluorouracil の作用にはチミジル酸合成酵素阻害が関与する
  - (2) doxorubicin の効果には腫瘍細胞の薬剤耐性遺伝子発現が関与する
  - (3) docetaxel の作用は細胞周期の S 期である
  - (4) cisplatin の最も注意を要する副作用は骨髄抑制である
  - (5) irinotecan の作用は腫瘍細胞の topoisomerase I を介する
- a (1)(2)(3)    b (1)(2)(5)
  - c (1)(4)(5)    d (2)(3)(4)
  - e (3)(4)(5)
- 5 60 歳の女性。1 年前より慢性的な貧血を指摘されていたが放置、1 週間前から発症の心窩部痛・黒色便を主訴に内科受診。胃体部大弯側の 3 型胃癌、横行結腸浸潤と診断され内科入院し、諸検査の後外科転科となった。幽門狭窄、イレウス症状なし。血圧 108/60mmHg、体温 37.0、赤血球 290 万、Hb 8.5g/dl、Ht 30%、白血球 8,000、血小板 14 万、総蛋白 6.5g/dl、アルブミン 3.6g/dl、CRP 1.0mg/dl、凝固能障害なし。胃全摘、横行結腸部分切除を予定した。
- 本症例において行うべき周術期管理はどれか。
- (1) 術前の濃厚赤血球輸血による貧血の是正
  - (2) 術前 1 週間の、絶飲食・IVH 管理、H2 blocker 投与
  - (3) 術前 6 日間の経口抗菌薬連日内服による chemical colon preparation (化学的大腸前処置)
  - (4) 術前日のポリエチレングリコール液による mechanical colon preparation (機械的大腸前処置)
  - (5) 術開始直前の予防的抗菌薬全身投与
- a (1)(2)(3)    b (1)(2)(5)
  - c (1)(4)(5)    d (2)(3)(4)
  - e (3)(4)(5)
- 6 52 歳の男性。人間ドックの腹部超音波検査で異常を指摘され、入院となる。以前より、ときどき発汗の異常がみられていた。
- 入院時現症では、血圧 150/90mmHg、腹部は平坦、軟で腫瘍は触知せず、その他特に異常はみられなかった。血液生化学検査上も異常はみられなかった。
- 腹部超音波(写真 1a)、腹部 CT(写真 1b)を示す。
- 考えられる疾患はどれか。
- (1) Paraganglioma
  - (2) Malignant lymphoma
  - (3) Malignant fibrous histiocytoma

- (4) Lymphangioma  
 (5) Lipoma  
 a (1)(2)(3) b (1)(2)(5)  
 c (1)(4)(5) d (2)(3)(4)  
 e (3)(4)(5)
- 7 63歳の男性。CT-scan並びに超音波内視鏡では、明らかな所属リンパ節腫大はなく、重要臓器の機能障害は認めない。食道造影(写真2a)と病変部の生検組織(写真2b)を示す。治療方法として正しいのはどれか。  
 a 根治的放射線療法  
 b 術前化学療法  
 c 補助療法なし  
 d 術前放射線療法  
 e 術後化学療法
- 8 誤っているのはどれか。  
 a 逆流性食道炎 —— Toupet 法  
 b 食道アカラシア —— Heller-Dor 法  
 c 胃静脈瘤 ——  
 Balloon Occluded Retrograde  
 Transvenous Obliteration  
 (B-RTO 法)  
 d バレット食道 —— Petrovsky 法  
 e 顆粒細胞腫 —— endoscopic resection
- 9 食道静脈瘤について正しいのはどれか。  
 (1) R-C sign は出血の前徴である。  
 (2) 求肝性副血行路の経路である。  
 (3) 静脈瘤の破裂出血の好発部位は、第2狭窄部付近である。  
 (4) 高度肝機能障害を伴う。  
 (5) TIPS は門脈圧を減圧させる処置である。  
 a (1)(2) b (1)(5) c (2)(3)  
 d (3)(4) e (4)(5)
- 10 食道癌について正しいのはどれか。  
 (1) 飲酒喫煙は発生要因の1つである。  
 (2) 死亡率は、男性は女性の約2倍である。  
 (3) 本邦では逆流性食道炎を併発することが多い。  
 (4) 重複癌として頭頸部癌が多い。  
 (5) ヨード染色併用の内視鏡によるスクリーニングが大切である。  
 a (1)(2)(3) b (1)(2)(5)  
 c (1)(4)(5) d (2)(3)(4)  
 e (3)(4)(5)
- 11 セクレチンについて正しいのはどれか。  
 a ガストリンの分泌を促進する。  
 b 胃酸分泌を促進する。  
 c 膵よりの水・重炭酸分泌を促進する。  
 d Oddi 括約筋を収縮させる。  
 e 幽門前庭部の G-cell より分泌される。
- 12 胃癌について正しい組合せはどれか。  
 a 分化型胃癌 —— MTX/5-FU 交代療法  
 b 早期胃癌 —— リンパ節転移陰性  
 c AFP 産生胃癌 —— 肝転移  
 d 多発胃癌 —— 全胃癌症例の約3%  
 e Schnitzler 転移 —— Morrison 窩
- 13 *Helicobacter pylori* 感染について正しいのはどれか。  
 (1) 除菌後に再陽性化する菌は、DNA 解析からは大部分が除菌前の菌とは異なっている。  
 (2) 除菌判定には尿素呼気試験法 (urea breath test : UBT) が有用である。  
 (3) 残胃炎の成因としては *Helicobacter pylori* 感染も関与している。  
 (4) 除菌療法の際、薬剤耐性が問題になるのはアモキシシリン (AMPC) である。  
 (5) 腸上皮化生の上皮にも *Helicobacter pylori* は存在する。  
 a (1)(2) b (1)(5) c (2)(3)  
 d (3)(4) e (4)(5)
- 14 胃の gastrointestinal stromal tumor(狭義)について正しいのはどれか。  
 (1) 胃の粘膜下腫瘍の中では最も頻度が高い。  
 (2) c-kit 遺伝子が陽性である頻度が高い。  
 (3) リンパ節転移を起こしやすい。  
 (4) 術後の再発で最も頻度が高いのは腹膜播種である。  
 (5) 化学療法に対する感受性が比較的高い。  
 a (1)(2) b (1)(5) c (2)(3)  
 d (3)(4) e (4)(5)

- 15 50歳の男性。3か月前に前庭部胃癌のため幽門側胃切除術を受けた。食事を摂取すると、その直後から動悸・冷汗が起り、同時に下痢を伴うようになった。  
この患者の病態について正しいのはどれか。
- (1) 食物流入による腸伸展、腸間膜牽引神経反射が関与する。  
(2) 発生には、セロトニン、ブラディキニンが関与する。  
(3) 低張性脱水を起こす。  
(4) インスリンの過剰分泌がある。  
(5) 治療としてペリアクチンが用いられる。
- a (1)(2)(3)    b (1)(2)(5)  
c (1)(4)(5)    d (2)(3)(4)  
e (3)(4)(5)
- 16 82歳の女性。脳梗塞で長期臥床をしていたが、腹痛を伴わない突然の鮮紅色の下血を認めた。考えられる疾患は何か。
- a 大腸憩室炎  
b 胃十二指腸潰瘍  
c 急性出血性直腸潰瘍  
d 虚血性腸炎  
e 直腸粘膜脱症候群
- 17 遺伝性非ポリポーシス大腸癌について誤っているのはどれか。
- a 若年発症である。  
b 常染色体優性遺伝である。  
c DNA修復遺伝子異常がある。  
d 多発癌・重複癌の頻度が高い。  
e 一般大腸癌より予後が不良である。
- 18 正しいのはどれか。
- (1) 下腹神経は骨盤腔では直腸固有筋膜の前方に位置する。  
(2) total mesorectal excision には側方郭清が含まれる。  
(3) surgical trunk は回結腸静脈流入点から胃結腸静脈幹流入点までの上腸間膜動脈を指す。  
(4) 臍下縁で上腸間膜動脈は上腸間膜静脈の左側に位置している。  
(5) 肝両葉に散在性に大腸癌転移を4個認める場合はH2となる。
- a (1)(2)    b (1)(5)    c (2)(3)  
d (3)(4)    e (4)(5)
- 19 正しいのはどれか。
- (1) 完全直腸脱の術式は、Gant三輪法、Tiersch法などが選択されることが多い。  
(2) Crohn病に伴う痔瘻に対し、drainage-seton法は有用性が少ない。  
(3) 肛門周囲膿瘍は、坐骨直腸窩に形成されることが多い。  
(4) 直腸のカルチノイドは、transanal endoscopic microsurgery (TEM) の良い適応である。  
(5) rectocele は経膈の手術も有効である。
- a (1)(2)(3)    b (1)(2)(5)  
c (1)(4)(5)    d (2)(3)(4)  
e (3)(4)(5)
- 20 66歳の男性。便通異常により大腸の検査を行ったところ、下部直腸に病変が認められた(写真3a, 3b)。  
正しいのはどれか。
- (1) 無症状で発見されることが多い。  
(2) グリメウス染色で黒褐色に染まる。  
(3) 腫瘍径は深達度と相関しない。  
(4) 直腸切断術の適応である。  
(5) 内視鏡的切除では断端陽性になることが多い。
- a (1)(2)(3)    b (1)(2)(5)  
c (1)(4)(5)    d (2)(3)(4)  
e (3)(4)(5)
- 21 50歳の女性。直腸癌に対して術前照射と補助化学療法後、低位前方切除・J型結腸囊肛門吻合術、横行結腸瘻造設術を施行した。第20病日に横行結腸瘻閉鎖術を施行した。経過は当初順調で食事も開始したが、その第5病日から腹痛、下痢、38台の発熱が出現した。  
血液検査所見：赤血球359万、Hb11.1g/dl、白血球3,900、血小板19.3万。  
この後行われた大腸内視鏡(写真4a)と生検組織(写真4b)を示す。  
誤っているのはどれか。
- a 安静・絶食  
b 完全静脈栄養

- c 糞便の細菌学的検査  
d 強力な止痢剤の投与  
e バンコマイシンの投与
- 22 70歳の男性.昨日夕方より左上腹部から下腹部にかけての,持続的な鈍痛と下血を認め来院した.内視鏡(写真5)を示す.  
治療方針として適切なのはどれか.  
a 経過観察  
b サラゾピリン投与  
c ステロイド注腸  
d イソニアジド,リファンピシン投与  
e S状結腸切除
- 23 43歳の女性.以前より右背部に鈍痛あり.最近簡単に皮下出血を起こすようになってきた.CT(写真6a,6b,6c)を示す.  
正しいのはどれか.  
a 経過観察とする.  
b 手術治療を選択する.  
c マイクロウェーブ焼灼治療を施行する.  
d 放射線療法が第一選択である.  
e 血管造影下に塞栓術を施行する.
- 24 誤っている組合せはどれか.  
a 肝細胞癌——アルコール  
b 肝細胞腺腫——経口避妊薬  
c 限局性結節性過形成(FNH)——中心癒痕  
d 海綿状血管腫——  
Kasabach-Merritt 症候群  
e 胆管細胞癌——CA125
- 25 門脈圧亢進症について正しいのはどれか.  
(1) 基礎疾患として最も多いのは肝硬変症である.  
(2) 肝外門脈閉塞症の原因として最も多いのは慢性膵炎である.  
(3) Budd-Chiari 症候群では腹水,上下肢の浮腫を伴うことが多い.  
(4) 特発性門脈圧亢進症では約半数の症例で肝機能低下が認められる.  
(5) 肝硬変症では類洞後性血流ブロックを認める.  
a (1)(2) b (1)(5) c (2)(3)  
d (3)(4) e (4)(5)
- 26 正しいのはどれか.  
(1) 血中アンモニア値は肝性脳症の程度を正確に反映する.  
(2) T. bil. が 3.0mg/dl 以上では ICGR15 は評価が不正確となる.  
(3) h-HGF は劇症肝炎では上昇する.  
(4) HPT は主に第 III, VIII, X 因子の血液凝固因子活性を現わしている.  
(5) BCAA/AAA は劇症肝炎で上昇する.  
a (1)(2) b (1)(5) c (2)(3)  
d (3)(4) e (4)(5)
- 27 肝切除について正しいのはどれか.  
(1) 肝右葉切除では右下大静脈靱帯を切離する.  
(2) 中央二区域切除は内側区域と前区域を切除する術式である.  
(3) 左三区域切除では右肝静脈が離断面に露出する.  
(4) 肝左葉切除では中肝静脈を切離する.  
(5) 右三区域切除では左肝静脈が離断面に露出する.  
a (1)(2)(3) b (1)(2)(5)  
c (1)(4)(5) d (2)(3)(4)  
e (3)(4)(5)
- 28 61歳の女性.AFP 117ng/ml,PIVKA-II 320 mAU/ml,CEA 27ng/mlであった.造影CT(写真7a,7b)を示す.  
最も可能性のある診断名はどれか.  
a 胆管細胞癌  
b 中低分化型肝細胞癌  
c 転移性肝癌  
d 肝細胞腺腫  
e 混合型肝癌
- 29 重症急性膵炎について正しいのはどれか.  
a 胆石性膵炎が最も多い.  
b 発症早期の手術が望ましい.  
c 死亡率は50%を超える.  
d 腎不全の状態でない場合でも,血液浄化療法が適応になることがある.  
e 早期に肺水腫を合併しやすいため,大量輸液は禁忌である.
- 30 正しいのはどれか.  
(1) 副膵管は総胆管の背側を走行する.

- (2) 肝十二指腸間膜内で門脈は最も背側を走行する。
  - (3) 上腸間膜動脈は左腎静脈の腹側に走行する。
  - (4) 右肝動脈が上腸間膜動脈より分岐するときは、肝十二指腸間膜の右側を走行する。
  - (5) 右肝動脈は通常総肝管の腹側を横切るように走行する。
- a (1)(2)(3)    b (1)(2)(5)  
 c (1)(4)(5)    d (2)(3)(4)  
 e (3)(4)(5)

写真 1a

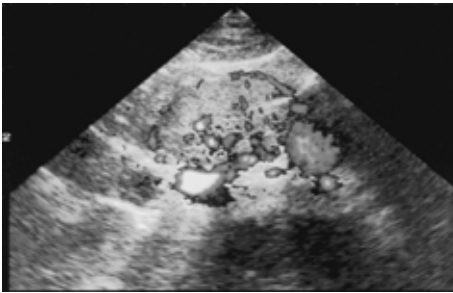


写真 1b

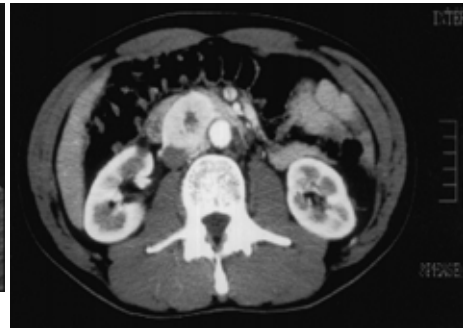


写真 2a

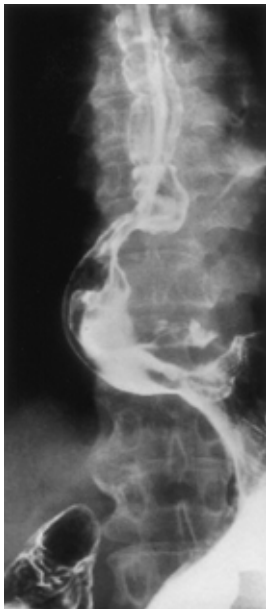


写真 2b

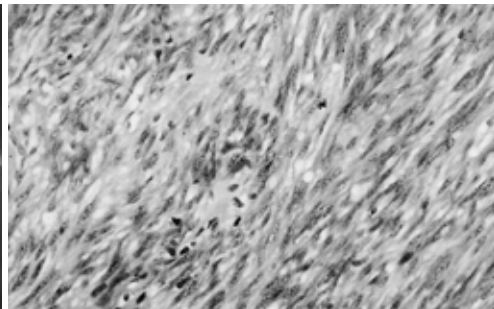


写真 3a



写真 3b

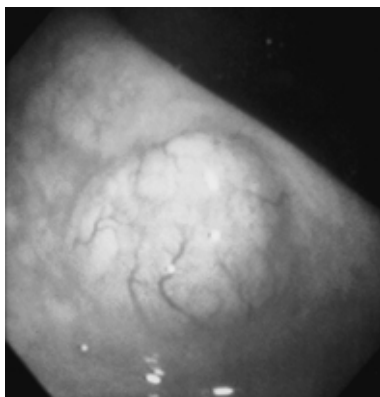


写真 4a

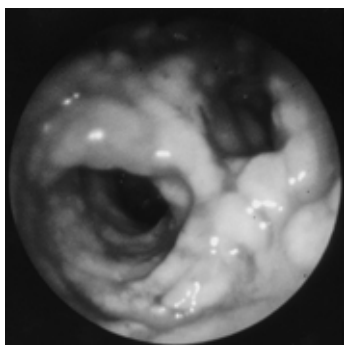


写真 4b

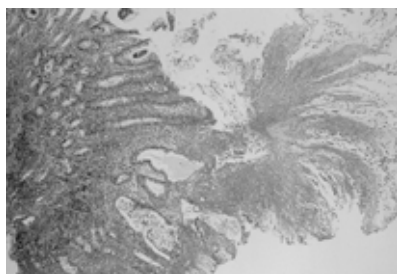


写真 5

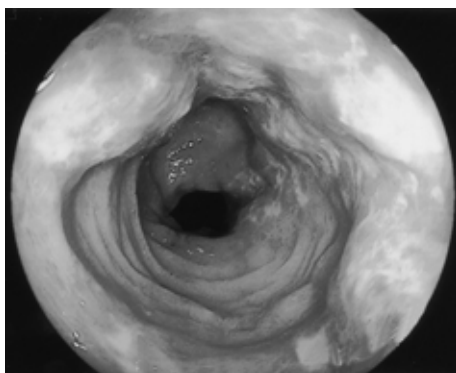


写真 6a



写真 6b



写真 6c



写真 7a

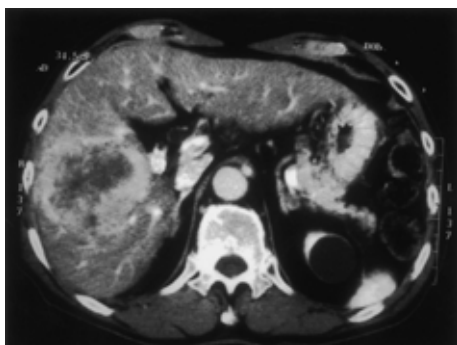


写真 7b

